

第1章
知覚実験：ミュラー・リヤー錯視
— 対応のあるt検定 —

2021.4.22 橋本貴充・荘島宏二郎

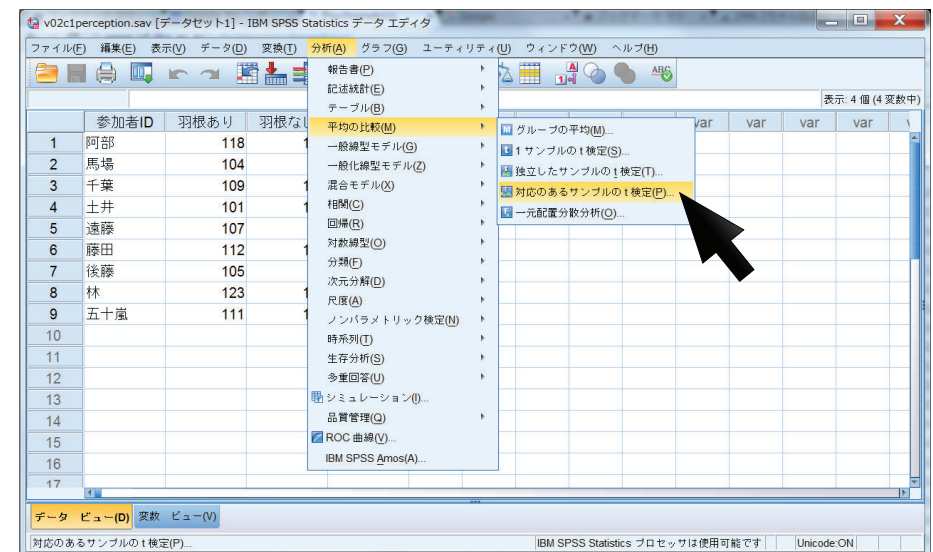
目的

- 対応のあるt検定の実行
- データはv02c1perception.savを使用

本稿は
第1巻SPSS資料を
既知として
解説しています

対応のあるt検定 1/2

分析→平均の比較→対応のあるサンプルのt検定



対応のあるt検定 2/2

②を行うと
変数がここに入る

③OK

対応のあるt検定 効果量(標本標準化平均値差)

対応サンプルの検定									
		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)
		平均値	標準 偏差	平均値の 標準誤差	差の 95% 信頼区間				
					下限	上限			
ペア 1	羽根あり - 羽根なし	9.000	6.000	2.000	4.388	13.612	4.500	8	0.002

対応のあるサンプルの効果サイズ						
		Standardizer ^a	ポイント推定	95% 信頼区間		
				下限	上限	
ペア 1	羽根あり - 羽根なし	Cohen の d	6.000	1.500	0.507	2.454
		Hedges の補正	6.301	1.428	0.482	2.336

a. 効果サイズの推定に使用する分母。

Cohen の d は、平均値の差のサンプル標準偏差を使用します。

Hedges の補正は、平均値の差のサンプル標準偏差と補正係数を使用します。